

三寮寮歌(逍遙歌)

作詞:安藤民夫

作曲:本橋昌雄

- 一. 花咲き香れ 彌生の 紅の色 輝きて
光もそえん 春なれば 舞いまう蝶も ともどもに
今日ことほがん うたげかな
- 二. しばしの夢を 花の陰 ただよう風に 身をのせて
たどりて行かむ あかね雲 思い果てなし 道遠し
照る月影も おぼろなり
- 三. 古き傳説は 鎌倉の 名に負う寺の 鐘の声
権を極めし 武士の 栄枯のあとは 苔むして
眼に夏草の 茂るあり
- 四. 源家の流れ あへなくも 三世の血は つたへ来て
見よ東海の 芙蓉の地 意気や壮なり 由比ヶ浜
醜虜をきりし 秋の水
- 五. 憩をしばし 泉の岸 緑の陰を 求むれば
そよ吹く風の 冷たさよ 秋色ははや 迫りきて
色移ろいぬ 嗅(?)児の間に
- 六. 黙示の星の さゆるとき 金波銀波に 夢のせて
運ばん方は バビロンの 彼の水青き 河岸や
歴史は古き 都跡
- 七. 心の旅路 はてしなく 真白の雪の 積る夜を
あつき情の 君とわれ 燃ゆる心に 口ずさむ
冬来たりなば 春近し
- 八. 夢多かりし 春なりき つきぬ思いの 秋なりき
三年の別れ 告げんとて 逍遙の歩を 進れば
星かげ淡く 月白し